

特集  
豊後大野市  
議会交通

清川町  
平石  
ひらいし



出合橋（手前）と轟橋（奥）

ふるさとを  
訪ねて

水澄みて山は緑……

ふるさと紹介シリーズも5回目となり、今回は清川町平石地区を訪ねました。

本庁から牧口・姥社線を経由し、車で約30分、山と谷に囲まれた地域です。

終戦当時は、約140戸・1000人近い人が住んでいましたが、今では37戸・50人位となっています。

平石地区は、昭和の大合併で、旧清川村と旧緒方町に二分されました。当時は、毎日見張りが立つなど、合併をめぐる熾烈な紛争があったそうです。



ここは、昔から木材の切り出しが盛んで、運搬のためトロッコの軌道が敷かれたほどです。

また尾平からの鉱石を運ぶ車も往来するなど、行き交う人々にぎわった時期がありました。

地区内には、祖母山の木材を牧口の貯木場に運ぶため、営林署の林道軌道橋としてトロッコが渡った「轟橋」と、地区の生活道として架けられた「出合橋」が並んでいます。

奥嶽川にかかる有名なこの2つの橋は、どちらもアーチ型の石橋ですが、アーチの両端を結ぶ直線距離が全国1位、2位となっております。

そして、今でも生活道として皆さんに愛されている現役の橋でもあります。

他にも天正（1573年）の頃からといわれる「阿弥陀堂」、種毛ミの保存を目的とした「瑞穂神」などは、地区の守り神として大事に祀られ、獅子舞の奉納や供養は欠かせない行事となっています。地区の方々が語ってくれました。